



### Corporate Profile

本 社 兵庫県加古川市平岡町二俣 249-1  
 設 立 1943年 4月  
 売上高 76億 9,000万円 (2014年 6月期)  
 従業員 258人 (2014年 6月)  
<http://www.futagawa.co.jp/>



## 株式会社二川工業製作所

### 代表取締役社長 二川 昌也

1965年兵庫県生まれ。当初、祖父が創業した二川工業製作所を継ぐつもりはなく、大阪市内の商社に就職したが、その後、2代目を継いだ父から呼び戻されて同社に入社した。入社後は従業員に対する教育を熱心に行うなどして、会社の改革を図る。長く同社の旗艦工場である二見工場長を務めていたが、2012年より現職。



# 中国への工場進出はあくまで現地での販路拡大のため

取材・文/高橋智則 写真/伊藤善規 写真提供/株式会社二川工業製作所

### 成熟した産業のなかで 生き残りを模索する

建設機械装置・部品をメインに産業用ロボット、産業用機械部品の製造を行う株式会社二川工業製作所。2012年に代表取締役社長に就任した二川昌也氏で3代続く播州地方の中間加工業の雄だ。同社は重工メーカーが地元に進出し、その規模を拡張するとともに着実に実績を積み、業績を伸ばしてきた。

同社の企業理念は「お客様に役に立つ」。そのためには、いかに付加価値の高い製品を顧客に提供できるかが重要だ。「主軸である建設機械は産業として成熟しています。それだけに、今後どのようにやっていくのかを熟慮しなければ生き残れません」と二川社長。その方策として同社は04年に中国に進出した。

### 狙いは中国市場での 信頼獲得

進出の際、二川社長が考え

たのは中国市場への販路拡大だ。現地の人件費の安さには一切期待しなかった。人件費はいずれ上がる。そうなれば、また違う国に移転することになる。

「むしろ、いかに効率よく効果的に日本から中国に派遣できるかを考えるべきだと考えました」（二川社長、以下同）  
 実際、人件費の高騰で中国から撤退する企業が増え、その一方で顧客の風向きも変わった。かつてはコスト削減のために現地の日本人を減らせといっていたのが、最近では逆に増やしてほしいと希望するようになったのだ。

理由は技術力の差。中国では、少し技術を覚えたら他社に移る人間が多い。しかし、それではコアな技術は身につかない。そうなる、確かな技術を身につけた日本人が必要となる。まさに二川社長の読み通りの展開である。

同社においても、現地での教育の徹底はもちろん、日本から優秀な技術者を派遣するなどして、日本で製造したも

## 従業員が一生働き続けられる 会社になりたい

のと同じ品質を実現している。そんな同社への信頼は厚い。業界自体が頭打ちの状況下で、着実に中国市場で売上を伸ばしているほか、同国からアメリカ市場への輸出も開始した。

### 国内では売上を求めず 技術力を突き詰める

現在は、中国以外の海外工場は考えていないという同社。では、国内についてはどのように考えているのか。

「日本の工場では、コアな技術力を持つことを目指しています。いまの日本は経済的な成長を求めることは難しいので、単純に売上増を狙うより

も、技術力を高めたほうが次につながる考えた結果です」  
 その一環として、技術開発専門の部署や社内教育を行う部署の設立を準備している。  
 さらに、ソーラービジネスにも挑戦中だ。「これは従業員が歳をとっても働ける環境をつくる試みの一環です」。

製造業は軽作業もあるとはいえ、重労働。新しい事業ができれば、体力が落ちても雇用を続けることができるかもしれない。「一生働き続けられる会社をつくるのが今後の課題です」。

市場を見据え、それを支える社員を大切にしている二川社長の挑戦は続く。



同社の旗艦工場である二見工場での製造風景。よく整理されており、管理が徹底されていることがよく分かる



二見工場のラインは二川社長のアイデアによって組まれている。その優れた機能性に訪れた顧客は驚くという